

低標高地域における放牧地に適した草種・品種の選定

平地においては、バヒアグラスナンゴクが収量的に優れており放牧利用に適した草種である。一方、傾斜地においては、マットを形成し土壌流亡を抑え、播種で造成可能なセンチピードグラスが適している。

農業研究センター 畜産研究所 飼料研究室 (担当者: 橋口 純也)

研究のねらい

近年、肉用牛の低コスト・省力生産を目的として、低標高地域においても水田裏放牧や周年放牧への取組みが見られるようになった。

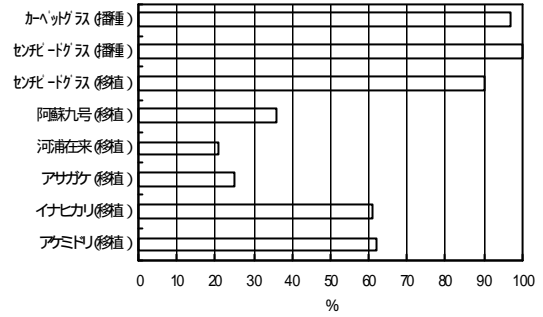
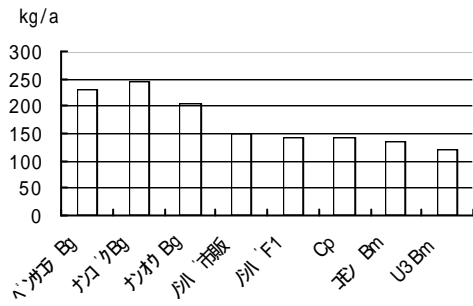
しかし、草種(品種)の選定や放牧地の造成・利用技術については未解明な部分も多いため、転作田及び耕作放棄地等の有効利用による肉用牛の低コスト生産を推進する方策の一つとして、低標高地域に適した草種(品種)を選定する。

研究の成果

1. 平坦地においては、シバ型草種に比べ、バヒアグラスが収量的にも多く放牧草地に適している。(図1参照)
2. 傾斜地においては、シバ型草種の方がマットを形成し土壌流亡を抑えるため適しており、その中では、初期成育が早いセンチピードグラスが有望である。(図2参照)
3. バヒアグラス、センチピードグラスのTDN含量は、イタリアンライグラスの再生草・結実期と同等である。(表1参照)

普及上の留意点

1. 草種・品種の選定に関して低標高地帯(400m以下)で行った試験である。適地以外では、品種の特性が発揮されないため注意が必要である。
2. バヒアグラス(ナンオウ)は、冬期(12~3月)平均気温が6.1以下の地域では衰退する可能性があるため、標高80m程度以下の地域に適すると考えられる。(図3、図4参照)
3. 初期成育の早いセンチピードグラスであっても他の飼料作物(非シバ型)に比べ放牧草地造成に時間を要する。



バヒアグラス

図 1 : 草種間乾物収量(kg/a)

図 2 : 造成 80 日目の被度

表 1 : TDN含量と一般成分の比較

草種名	粗蛋白	粗脂肪	NFE	粗繊維	灰分	TDN	乾物中%
バヒアグラス	11.6	0.9	48.3	30.8	8.3	51.7	
センビードグラス	10.7	1.1	47.1	31.1	10.0	51.8	
イタリアンライグラス (再生草 結実期)	11.0	2.6	43.8	35.6	7.0	51.3	

イタリアンライグラスは飼料成分表より

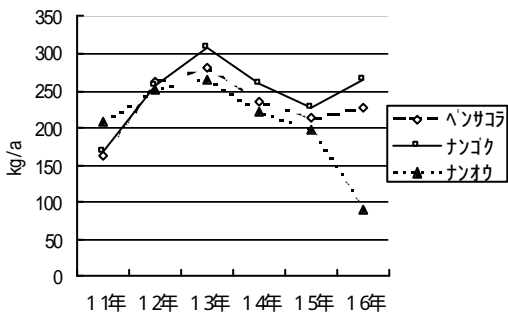


図 3 : バヒアグラス乾物収量(kg/a)

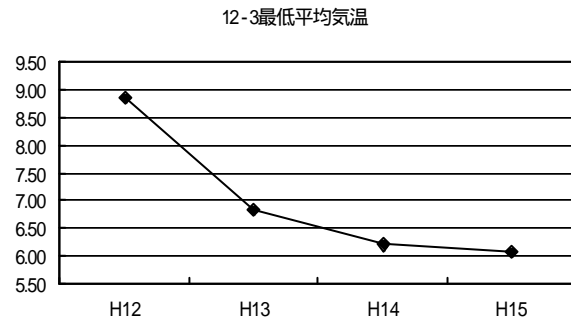


図 4 : 12~3月間最低平均気温 ()